

6. 整備事例

中津原箇所（水辺の楽校）（H11～12年度）

- ・ 事業費 : 105百万円
- ・ 整備内容 : 高水敷整正、張芝、ワンド等(L=約0.2km、A=3,100m²)
- ・ 自治会、老人会、小学校代表者により水辺の楽校推進協議会を結成し、整備内容の詳細、利用・管理方法について検討し、当該地域の古くからの河川との関わりを表す巻き石護岸を保存したり、ごじんじを再現する等の整備を行った。
完成後は、地元自治会等と管理協定を締結し除草や清掃活動など、現在も良好に管理されている。

やまあいブロック

< 整備状況 >

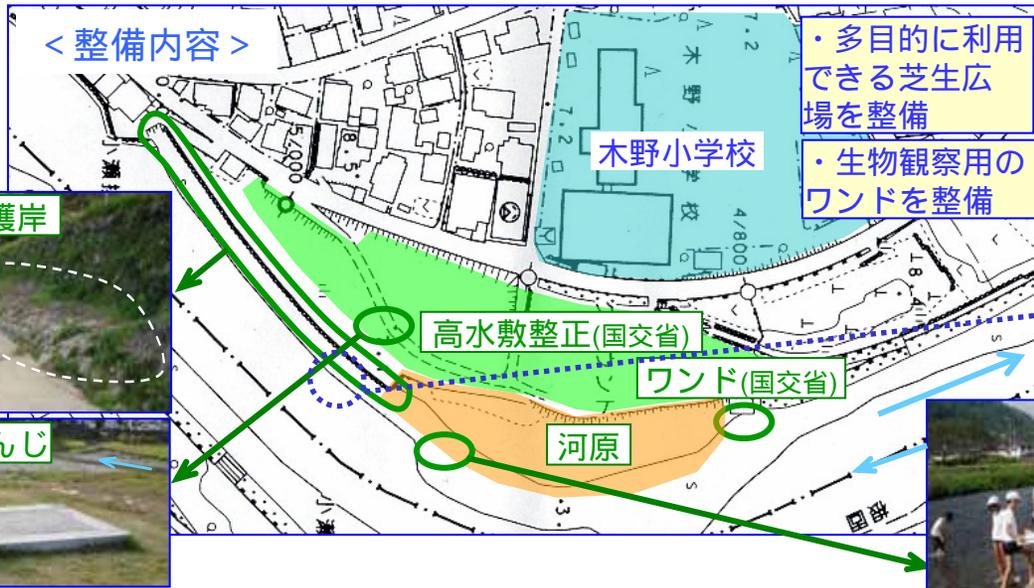


- ・ 木野自治会が年3～4回芝刈りを実施
- ・ 木野自治会が週1回のトイレ清掃
- ・ 地元老人会が週3回のゲートボール時に清掃

< 利用状況 >



< 整備内容 >



巻き石護岸 : 江戸時代から残る堤防をそのまま保存した。

ごじんじ : 大名行列が渡る時に殿様のかごを置く石を再現した。

楮晒し場 : 大竹地域で昔から盛んな和紙作りをイメージできるものとして和紙の原料(コウゾの皮)をさらす場所を再現した。



元町箇所 (H13~14年度)

河口市街地ブロック

- ・ 事業費 : 260百万円 ・ 整備内容 : 親水護岸L=約0.6km、坂路N=2箇所、階段等N=12箇所
- ・ 和木町の健康づくり計画「ウォーキングロード」や隣接医療機関の意見を詳細計画に反映した。完成後は、自治体やNPO法人等により清掃活動や花壇の手入れが良好に行われている。

< 整備前の状況 >



< 整備位置 >



- ・ 沿川の市登録美化団体 (老人会や子供会) が清掃、除草、ゴミ拾い等をほぼ毎月実施。
- ・ 沿川美化団体 : 9団体
- ・ 団体登録人数 : 約356人
- ・ H16活動実績 : 延べ838人

< 整備直後の状況 >



< 現在の状況 >

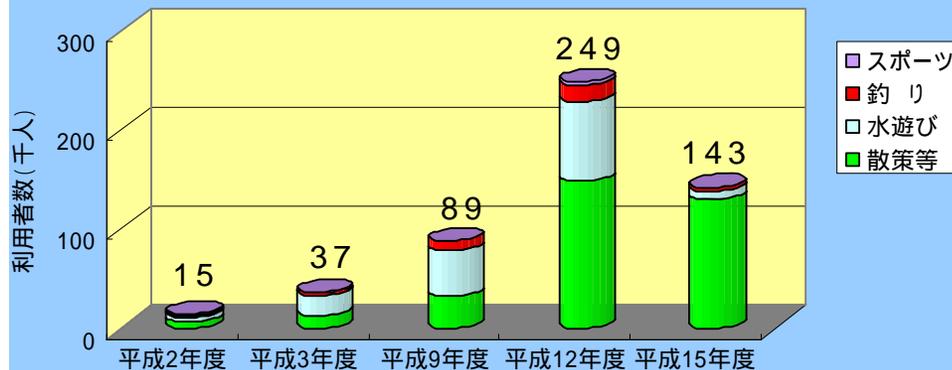


7. 小瀬川水系の河川利活用状況

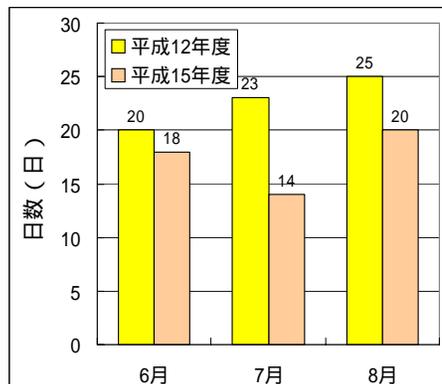
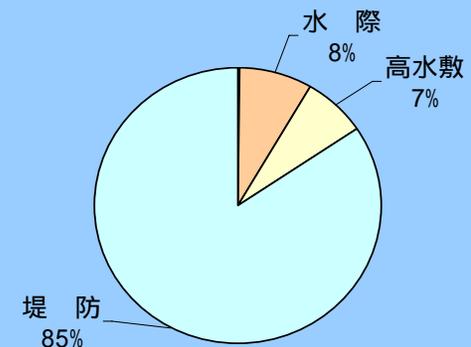
(1) 河川利用実態

- 河川水辺の国勢調査（空間利用実態調査）によれば、平成15年度調査結果は夏期の天候に左右され、前回調査結果より利用者は減っているが、平成9年度以前の結果からは増加傾向にあり、概ね15万人となっている。
- 利用場所別の内訳では、ウォーキングロード整備に伴い、特に散策等の利用者が多くなっている。

小瀬川空間利用状況（河川水辺の国勢調査）



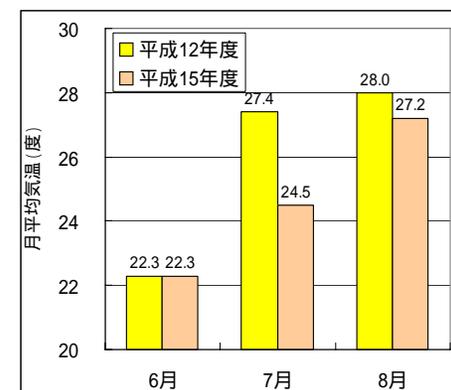
利用場所別の利用者割合（H15年度調査）



平成15年度は、12年度調査に比べ、夏季の天候不良で特に「水遊び」が減少した。

← 晴れの日の日数比較
(広島地方気象台)

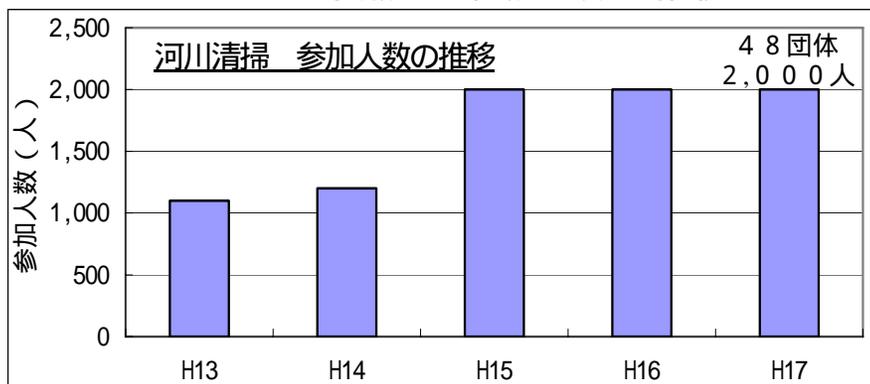
平均気温の比較 →
(大竹観測局)



(2)地域の協力体制(その1)

- ・自治会、漁協、NPO法人等により、毎年7月の河川愛護月間に河川清掃「クリーン小瀬川」が開催されている。参加者は約1,000～2,000人である。
- ・この他、沿川の老人会や子供会が毎月のように、清掃活動や花壇の手入れ等を行っている。

クリーン小瀬川 参加人数の推移



<河川清掃> (クリーン小瀬川)



沿川美化団体による日常の清掃活動等 (H16年度実績)

小瀬川沿川の美化団体名	会員数	月別活動人数(人)												合計	
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
老人クラブ楽老会	44		36		43		21	55					6	8	169
老人クラブ七福会	34		6				33	10							49
三福会	20	5	5	20	20	5	20	5	5	18	5	5	16	129	
元町3丁目子供会	48	4	41	2	2	5	4	4	4	10	2	2	2	82	
本町寿老会	29	14	14	14	14	14	14	14	14	14				126	
満月会	31			6			13						7	26	
南栄2丁目老人クラブ楽栄会	78				43		37	10					22	112	
本町2丁目光寿会	28			7	18	4	10						9	48	
新町3丁目子供会	44				55		17		12				13	97	
第二喜楽会	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240	
	376													1078	



7月の活動は「クリーン小瀬川」参加者と重複する。

(2)地域の協力体制(その2)

- ・教育ボランティア等により水辺の楽校清掃活動や総合学習支援が行われている。
- ・山口県健康福祉部では、元町・和木箇所(ウォーキングロード)を住民の健康づくりの場として紹介し、利用を呼びかけている。
- ・和木町では、平成14年度から元町箇所(中市堰～大和橋)を利用した「元気づくり事業(健康ウォーク)」を開催し町民の健康づくりに役立っている。その後、和木箇所の完成に伴い、町民の要望からウォーキング範囲が延長(中市堰～栄橋)された。



水生生物調査

水辺の楽校を利用した学習計画(木野小学校)

- ・自然観察(理科)
- ・水生生物調査(理科)
- ・水質検査(理科)
- ・郷土の歴史学習(総合)
- ・清掃活動等(総合)



水辺の楽校ベンチ製作

木野っ子応援団が自主的に水辺の楽校のベンチを作製した。



総合学習 花植え

小学校児童と木野っ子応援団で四季折々の花を育てている。

山口県広報活動 (ウォーキングマップ(県健康福祉部HP))



元気づくり事業・健康ウォーク (和木町保健相談センター主催)

写真は同センター提供の昼間のウォーキング状況である。



←(注) 木野っ子応援団：大竹市木野地区の教育ボランティア

(3)地域住民の評価

- ・平成15年に実施した「川の通信簿」によると、元町箇所（親水護岸）において、三つ星（ ）の評価が得られている。

川の通信簿（H15実施）における住民の評価

特に良い点

- ・散策道がきれいで利用しやすい。
- ・護岸整備により景観が良くなった。

[評価基準]

- 五つ星： 非常によい、素晴らしい。
- 四つ星： 相当よい、満足感を味わえる。
- 三つ星： かなり良い部分があり一定の満足感を味わえる。
- 二つ星： ある程度良い部分がある。
- 一つ星： 一部は良い部分がある。



(4)整備効果

- 河川水辺の国勢調査（空間利用実態調査）によれば、元町・和木箇所（親水護岸）と中津原箇所水辺の楽校）の完成前後で、河川利用者数が約3万人増加している。
- 水生生物調査参加人数についても、天候や児童数の減少による変動はあるものの一定の人数は維持されている。

<年間利用者数の推移>

年度	環境整備事業	利用者数(人)
H09年		15,264
H10年		
H11年	中津原箇所	
H12年	整備期間	
H13年	元町箇所	
H14年	整備期間	
H15年	和木箇所 整備期間	48,955
H16年		
利用者数の増分(人)		33,691

・総合学習への取り組みと効果

大竹市立木野小学校

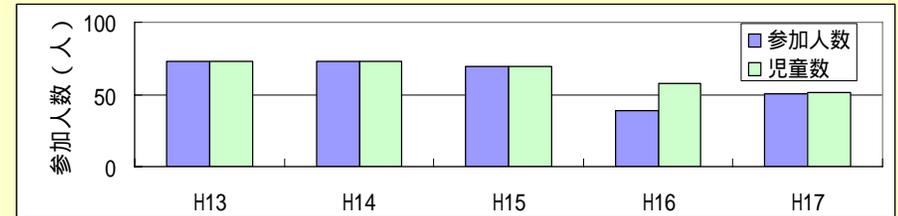
[課題] 小さな小学校から大人数の中学校に入学した際に萎縮する子ども達が見られた。

[取り組み] 大竹市立木野小学校では、水辺の楽校を契機に結成された教育ボランティアや老人会との遊びや奉仕活動などを通じコミュニケーション力や自覚を促す教育に取り組んだ。

[効果] 大竹市立木野小学校長は、下記のように水辺の楽校整備が子ども達の情操教育に効果があったと評価されている。

- 子ども達に、自分の長所を見つけたり自己存在感を持ち始めるなどの変化が見られるようになり、大人に対しても元気な挨拶や発言ができるようになった。
- 引き続き、岩国基地海兵隊を招待した交流を企画するなど様々な取り組みを行っている。

<水生生物調査参加人数の推移>



(参加校：大竹市立穂仁原小学校、大竹市立木野小学校、大竹理科クラブ)

水辺の楽校での取り組みの例

- 特に予定していなくても晴天の日に芝生広場に出て大声で歌う
- 老人会とのゲートボール競技
- 花壇の花植え
- 夏祭りの舞台上で創作音頭を踊る

水辺での取り組みの例

- ボランティアの舟を借りて川舟に乗って遊ぶ
- ボランティア指導による魚釣り



教育ボランティアと花壇の花植え



地元自治会の夏祭りでの創作踊り

8. 費用対効果分析（試行）

「河川に係る環境整備の経済評価の手引き（試案）H12.6」に基づき、試行的に評価を行った。

(1) 便益の計測

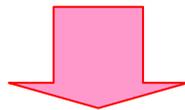
計測方法： CVM（仮想市場法）に基づき負担金の支払意志額（WTP）を計測

アンケートの内容： 小瀬川環境整備事業の全体（完成～計画中までの6箇所）について「あなたの世帯では、負担金が毎月いくらまでならば事業に賛成されますか？」

集計世帯数： 整備箇所沿川の2市2町（大竹市、岩国市、和木町、美和町）の中で無作為に抽出した1,500世帯にアンケートを配付した。

流域全体：約1万世帯の15%

有効回答数：313世帯（回収率21%）



集計結果：
支払意志額 = 405円 / 月 / 世帯
(WTP中央値)

